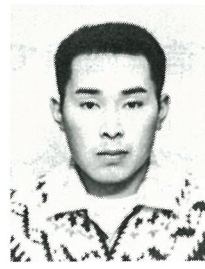


# 洋上青年大学体験記

## 第13回洋上大学

に参加して



中川 仁志  
谷越

なことから、何も知らない私が、班長という役を引き受けることになってしまった。

洋上大学に、団体運営リーダー養成ということで参加しました。

私自身、青年クラブの活動に積極的に参加しているとは、いいがたい存在であった。

しかし、「いつまでもこれでもいいのかな」と考えるようになった。その時、洋上大学のあることを知り、最後のチャンスかと思ひ、内容も具体的には何も知らないで申し込んだ次第である。

東金青年の家での事前研修、そして、六月十日〜十四日迄の本研修と進んだのですが、研修期間中十二名位の班ごとに行動するわけですが、各地域の青年団、各種サークルで役職について活動している人が大部分であるにもかかわらず、「ひょん

運営リーダーは、青年団活動の現状をみつけ問題点をだしあい、その中からテーマを設定し、テーマにそった年間行事予定計画の作成が主な研修内容となるわけですが、活動をしていない私が司会進行をつとめるのですから、班員もさぞ戸惑ったことと思われませんが、数少ない貴重な体験をさせていただいたと思います。

この洋上大学に参加して、私自身、青年の社会参加の認識不足、また、司会進行のまずさなど、反省すべき点も多かったが、兵庫県青年団との交歓会、また、班別の討議を通じてそれぞれがおかれている環境は違うものの、同じ問題を抱え同じ目的に向かって進んでいこう、と真剣に考えているのに、仕事に追われるままでの自分に、器の小さいことを痛感させられた。

今後、地域社会に根ざした活動を進める上で、青年の役割を充分に踏まえ、単に農業後継者に止どまらず地域後継者として、積極的に参加していきたい。

「運営三班バンザイ！洋上大学で培った友情の灯は永遠に消えることはありません。」

## 洋上青年教養大学 に参加して



磯後 喜正  
白向

「運営三班バンザイ！洋上大学で培った友情の灯は永遠に消えることはありません。」

今年も県教育委員会主催のこの研修が、六月十日から四泊五日の予定で、カトレア丸船上で行われ、私も青年クラブからこの研修に参加させていただきました。

この研修における内容は、まず船上における講義、班別討議、実習、レクリエーション等と寄港地での文化財見学、レクリエーション実技、現地青年団との交歓等である。

六月十日午前九時にカトレア丸はドラの音と共に千葉港を後一路、岡山の宇野港へと向け出発した。この時紙テープがカトレア丸と岸壁の見送りの人達の間を飛びか胸にジンときたのを覚えています。

船上で一番印象に残っている事は、二日目の夜のことである。低気圧による大時化で船の揺れ

は最高であった。船酔いがこんなに気持ちの悪いものとは思わなかった。その時、もう二度と船には乗りたくないと思いました。

寄港地の岡山、淡路島、島羽市、大島と大地に足をつけた時は、安心したものでした。

船上での生活も三日目、四日目になると大分なれ、食事などもおいしく感じた。この研修での一番の目的は、千葉県各地区から集まった仲間達との交流ではないかと思ひます。初めは、話すのも何かがごちなかつたが最後には、自分の意見等発言し合えるようになっていた。

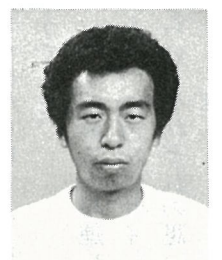
同世代の仲間が共通の悩みを持ち、この悩みを話し合い、話し合いの中から友情の和が強くなることは、すばらしいことだと思ひます。

私は、この研修で学んだことを少しでも今後の青年クラブ活動や自分の生き方に参考にして行くつもりです。

最後にこの研修に参加した講師の先生、カトレア丸の船長以下、船員の方々に感謝します。ありがとうございました。

## 洋上大学に

参加して



磯後 清次  
白向

今年で十三回を迎えた洋上教養大学に参加できる機会が出来た事は大変うれしく思ひます。

六月十日から十四日まで中堅リーダーとしての講義、実技、実習、レクリエーション活動が行われました。

参加人員は約二百名で、私は光町青年クラブから参加させていただきました。

研修は十日の朝七時半に集合して、九時には千葉港を離れ、岡山県渋川青年の家に向いました。事前研修の時に仲よくなっていたので本研修一日目も堅くならず終りました。

二日目は渋川青年の家に着いた。二日目にしてようやく陸に上がりました。

三日目は船にまた乗って現地青年団との交流会が行われました。地元の人達はとても親切にしてくれてとてもうれしく思ひました。

四日目は班別自主研修で鳥羽に行った。ミキモトパールなどを見て回った。

五日目は大島でハイキングや野外活動が行われました。